

# 今年も「子どもたちに夢と思い出を」

昭和村に花火を上げる会（高橋宣明会長）が主催するウインターフェスティバル2017が2月11日、長者の原結婚の森で開催されました。

この真冬のイベントは「子どもたちに夢と思い出を」をテーマに、平成7年から開催されており、今年で23回目。

イベントは午後4時から開幕され、会場では子どもたちに大人気のスノーチュービングや雪上での上毛かるた大会



真冬の夜空を鮮やかに彩った雪上火火

を開催。そのほか音楽バンド「YASUKI」や生越太鼓の演奏、ゆるキャラ「ひゅーどんどん」によるチョココレートの配付やビンゴ大会なども行われ、子どもたちの笑顔が溢れていました。

イベントのメインとなる雪上火火は、午後7時からスタート。およそ4、000発の花火が30分間に渡って打ち上げられ、色とりどりの花火が澄み切った夜空を鮮やかに彩りました。



たくさんの人たちでにぎわうビンゴ大会



子どもたちを乗せて疾走

## コミュニティ事業で 衣装やお面などを整備

永井区ではコミュニティ助成事業により、太々神楽で使う衣装やお面などを整備しました。

この事業は、宝くじの普及と広報を目的に、宝くじの収益を財源として、（一財）自治総合センターが地域の住民組織に助成しているものです。

整備した衣装やお面などは毎年4月に永井箱根神社で奉納される太々神楽に使われる予定です。



コミュニティ事業で整備した衣装



講演する蓮池薫さん

## 生涯学習大会で蓮池薫さんが講演

第22回生涯学習大会が2月18日、公民館多目的ホールで開催されました。

第一部では、1月13日に行われた「昭和村いじめ防止子ども会議」から村内各校を代表して、大河原小学校より4人の児童が取り組んできた活動を発表。



活動を発表した大河原小児童

第2部の人権講演会では、中央大学法学部3年在学中に拉致され、24年間、北朝鮮での生活を余儀なくされた拉致被害者の蓮池薫さんが「夢と絆」と題して、およそ2時間にわたって講演を行いました。蓮池さんは「拉致により命以外の大事なものを全てを奪われた。一番辛かったのは、夢、家族や友人との絆を奪われたこと。未だ拉致されている人たちの夢や絆を取り戻すため、政府には拉致問題に取り組んで欲しい」と語り、拉致された時の状況や北朝鮮での生活など、自身の体験をもとに講演。会場を訪れたおよそ300人が耳を傾けていました。

## 婦人会が人権学習会

昭和村婦人会（金井ゆき江会長）では2月22日、公民館で研修会を開催しました。

これは、同会員の知識と見聞を広め、活動の一層の充実と発展に役立てることが目的。今回の研修会では人権学習会が行われました。

学習会では、講師を務めた利根教育事務所 林崇夫先生が「思い込みや習慣を見直し人と接することで人権に対する気持ちに繋がる」と話し講義を行ったほか、参加体験型人権学習会も行われました。



人権について講義を行う林先生

## スポーツ食育セミナー in 昭和村を開催

昭和村体育協会（竹内敏昭会長）が主催する「スポーツ食育セミナー in 昭和村」が2月11日、公民館多目的ホールで開催されました。

セミナーには、スポーツをしている小中高生と保護者など、およそ230人が参加。管理栄養士で日本体育協会公認スポーツ栄養士の今井愛さん（横浜市）を講師に招き、「食のトレーニングを考えよう」と題しておよそ1時間半、講演が行われました。

今井さんは「良い体をつくるためには、自分に必要なエネルギーを知り、いろん

な物をバランス良く食べることが大切」と語り、主食と野菜、副菜や乳製品、果物が並ぶ食事を勧め、試合の後や練習後の食事、ケガをしにくい体を作るための食材など、スポーツ栄養について説明。また、「夢は口に出すことが大切」と、参加した生徒数人にスポーツの目標や夢をたずねていました。質疑応答では、生徒たちから「帰宅が遅くなったとき、夕食の量はどうすればよいか」や「ハンバーグの付け合わせには何を添えたらバランスがよいか」など、様々な質問がされました。



効果的な食事の取り方を説明する今井さん